

エコアクション21

環境経営レポート

活動期間：2023年4月～2024年3月

2023年度



千葉スバル株式会社

発行日：2024年06月30日

目 次

1. 会社概要		3
2. 環境経営方針		6
3. 環境経営目標		7
4. 環境経営の成果		8
5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価		9
6. 環境改善活動・社会貢献活動		10
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無		12
8. 代表者による評価と見直し		12
9. 経営におけるチャンスと課題		12
10.次年度以降の環境経営目標		13

1. 会社概要

(1) 事業所名

千葉スバル株式会社

(2) 所在地

千葉県千葉市美浜区新港 1 7 6 - 2

※ 店舗については(8)『EA21対象店舗一覧』を参照



(3) 代表者氏名

代表取締役社長 中島 明

(4) 環境管理責任者及びE A 2 1事務局連絡先

環境管理責任者
推進事務局

取締役(兼)最高執行責任者(兼)最高総務責任者
EX推進部 部長
経営管理部 施設・IT課 課長
UX推進部 促進課 課長
サービス部品部 サービス技術課 課長
EX推進部 教育企画課
UX推進部 バリューチェーン推進課

辻 正道
木下 真哉
友利 和正
菅谷 雄介
岡本 武司
蜂須賀 冬馬
小高 竜晟

連絡先 電話 043-243-2261
FAX 043-203-0120
URL <http://www.chibasubaru.com/>

(5) 事業の内容

新車・中古車の販売
部品・用品の販売
点検・整備

鈑金塗装
自動車リース
損害保険代理店業務

(6) 事業の規模

・売上高	287.70億円(2023年度)
・新車販売台数	4,946台(2023年度)
・中古車販売台数	1532台(2023年度)
・社員数(パート含む)	535名(2024年3月末現在)
・店舗数	
	本社 1
	新車販売 20
	中古車販売 4
	その他 4

※(1)～(5)は2024年6月30日現在

※(6)は2024年3月31日現在

(7) EA21推進組織図

※ 千葉スバル株式会社は全事業所・全部門にて
エコアクション21に取り組んでいます。



(8) EA21対象店舗一覧

千葉スバル株式会社は全組織・全活動を対象としてエコアクション21に取り組んでいます。

事業所名	郵便番号	住 所	責任者	電話番号	FAX番号	面積(坪)		工場 資格	正社員				非正規	総合計	組織区分	
						土地	建物		セールス	メカニック	その他	総数				
1 本社(部品センター含む)	261-0002	千葉市美浜区新港176-2	辻 正道	043-243-2261	043-203-0120	2503.4	1040.1	－	6		95	101	6	107	A	
2 新港店			景山 直人	043-238-1350	指定			9	10	7	26	2	28	C		
3 B P新港			池田 公紀	043-238-1351					6	5	11		11	E		
4 幸町店	261-0001	千葉市美浜区幸町2-20-31	下林 穂高	043-243-1321	043-243-2625	752.9	222.0	－	2		4	6		6	B	
5 幕張店	262-0032	千葉市花見川区幕張町5-417-354	大関 貴弘	043-213-3800	043-213-3805	1000.1	315.8	指定	5	5	4	14	1	15	C	
6 松戸店	271-0053	松戸市中根156-1	鈴木 基博	047-363-6111	047-330-1187	998.8	505.4	指定	6	6	6	18	1	19	C	
7 柏の葉店	277-0814	柏市正連寺406-3中央134街区4	谷 勇輝	04-7133-7231	04-7140-8054	925.3	574.8	指定	9	8	7	24	1	25	C	
8 南柏店	277-0856	柏市新富町1-1-11	名塚 勝芳	04-7147-5900	04-7147-5905	930.2	366.6	指定	4	6	7	17	1	18	C	
9 我孫子店	270-1152	我孫子市寿2-25-47	神谷 剛	04-7185-5050	04-7181-1137	316.7	121.2	－	4	1	4	9	1	10	C	
10 沼南サービスセンター	277-0922	柏市大島田127	久保田 治	04-7193-3700	04-7193-3710	222.6	120.8	指定		4	1	5	1	6	D	
11 カースボット我孫子	270-1177	我孫子市柴崎34-2	押切 裕之	04-7183-0611	04-7183-7282	1008.2	60.5	認証	3	1	2	6	1	7	C	
12 市川店	272-0015	市川市鬼高4-7-5	下川 久幸	047-378-1261	047-320-3241	1394.6	835.9	指定	9	7	7	23	2	25	C	
13 浦安店	279-0002	浦安市北栄4-20-8	吉岡 一貴	047-353-2111	047-390-6450	435.3	214.2	指定	5	6	5	16	1	17	C	
14 船橋店	273-0001	船橋市市場2-9-19	木村 直登	047-423-6631	047-426-8320	657.8	196.9	指定	7	5	6	18		18	C	
15 鎌ヶ谷店	273-0115	鎌ヶ谷市東道野辺5-9-19	伊沢 太郎	047-442-1211	047-498-5055	1075.0	524.6	指定	5	5	5	15	1	16	C	
16 習志野店	275-0001	習志野市東習志野6-16-43	渡邊 正洋	047-473-2171	047-470-1455	999.2	428.9	指定	6	6	6	18	1	19	C	
17 B P習志野			佐藤 剛							6	2	8	1	9	E	
18 カースボット八千代	276-0036	八千代市高津東4-7-11	玉垣 貴宏	047-487-0486	047-487-0520	608.0	55.7	認証	2	1	2	5	1	6	C	
19 市原店	290-0050	市原市更級2-3-1	菊地 猛	0436-37-1221	0436-20-1121	1323.6	446.5	指定	8	5	7	20	1	21	C	
20 木更津店	292-0014	木更津市高柳952	鎌田 孝一	0438-23-0321	0438-20-1039	673.2	224.7	指定	5	4	5	14	1	15	C	
21 君津店	299-1163	君津市全勝4-2-7	友利 和正	0439-55-7200	0439-50-1288	485.4	126.8	指定	4	4	2	10	2	12	C	
22 茂原店	297-0074	茂原市小林1732	廣田 芳和	0475-22-5271	0475-20-1090	632.2	136.1	指定	5	5	6	16	1	17	C	
23 東金店	289-1327	山武市姫島141-1	戸井 義人	0475-82-7221	0475-80-1005	591.4	156.5	指定	5	4	5	14	2	16	C	
24 長沼店	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町725	松崎 陽祐	043-250-3791	043-298-9045	964.7	342.1	指定	6	5	5	16	2	18	C	
25 ユーカリが丘店	285-0850	佐倉市西ユーカリが丘6-3-5	平野 敦史	043-462-5500	043-460-1575	826.3	773.9	指定	7	5	6	18	1	19	C	
26 成田店	286-0221	富里市七栄525-1	小野寺 猛	0476-37-3250	0476-37-3251	1478.3	849.1	指定	8	8	8	24	2	26	C	
27 誉田店	266-0005	千葉市緑区誉田町1-392-3	光山 太郎	043-292-6601	043-226-9032	429.1	147.7	指定	5	3	6	14	1	15	C	
28 カースボット柏の葉 CSTA柏の葉	277-0871	柏市若葉91-16	小林 満	04-7199-7007	04-7199-7027	600.4	230.5	認証	2	3	3	8		8	C	
29 CSTA成田	286-0046	成田市飯仲11-31	岡本 武司	0476-36-8220	0476-36-8344	1030.3	244.1	認証		4	2	6		6	D	
									総合計	137	133	230	500	35	535	

※社員数は2024年3月末現在

- 組織区分の意味
- A＝オフィス業務(事務所業務)
 - B＝オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）
 - C＝オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）＋整備業務
 - D＝オフィス業務＋整備業務
 - E＝オフィス業務＋钣金塗装

(9)「認証登録の範囲（組織・活動）」

認証・登録番号：0006212
認証・登録年月日：2010年11月18日
認証・登録事業者名：千葉スバル株式会社
対象事業所名：（8）「EA21対象店舗一覧」を参照
所在地：千葉県千葉市美浜区新港176-2
事業活動内容：新車・中古車の販売、部品・用品の販売、点検・整備、钣金塗装、自動車リース、損害保険代理店業務

2. 環境経営方針

環境経営方針

「基本理念」

私たちはSUBARUが持つ価値を当社に関わる全ての方に提供することで豊かな社会を作りたいと考えます。そのために欠かせない環境負荷軽減活動に全社員で取り組み、企業価値を上げることで愛される千葉スバルを目指します。

「基本方針」

この理念のもと、当社が行う自動車及び部品の販売、サービス・保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO₂削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 環境に配慮した自動車（新車・U-car）販売と、良質なサービスを提供する事で環境負荷の低減を進めます。
5. この環境方針を全社員に周知し、教育活動を推進します。

2010 年4月1日 制定

(2024 年4月1日 改訂)

千葉スバル株式会社

代表取締役社長 中島 明

3. 環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(1) 環境負荷状況

年度		単位	2023年実績
項目			
① 二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量	kWh	2,704,045
	CO2排出量	kg-CO2	0.00
	ガソリン	L	76,590.3
	CO2排出量	kg-CO2	177,689
	灯油	L	99.8
	CO2排出量	kg-CO2	249
	軽油	L	44,643
	CO2排出量	kg-CO2	115,178
	LPG	kg	15,330
	CO2排出量	kg-CO2	24,680
	都市ガス	m ³	203,507
	CO2排出量	kg-CO2	453,821
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】		kg-CO2	771,617
②水使用量の削減		m ³	16,765
③産業廃棄物排出量の削減		t	321.1
④事業における環境配慮推進			
a) 車検カバー率		%	70.1
b) IoT化販売促進 ※新車装着含まず		本数	15,331
c) 環境に配慮した車両 (HV, EV)の販売促進		台数	1,573

※化学物質は維持管理を実施している。



【CO2排出係数/調整後係数】

【電気】0kg-CO2/kWh (プレミアムゼロプラン) 2019年度より導入

【ガソリン】2.32 kg-CO2/L・【灯油】2.49 kg-CO2

【軽油】2.58 kg-CO2/L

【LPG】1.61 kg-CO2/kg・【都市ガス】2.23 kg CO2/m³

※排出係数は基準年度と同係数で統一

(2) 環境経営目標

年度		単位	2022年度実績	2023年目標 基準	2023年度目標	2024年度目標
項目						
① 二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量	kWh	2,741,976	店舗の傾向により目標を設定	2,787,366	2,744,147
	CO2排出量	kg-CO2	0.00		0.00	0.00
	ガソリン	L	92,007.9		95,208	79,016
	CO2排出量	kg-CO2	213,458		220,883	183,317
	灯油	L	635.9		737	273
	CO2排出量	kg-CO2	1,583		1,835	679
	軽油	L	35,391		34,125	36,666
	CO2排出量	kg-CO2	91,309		88,043	94,597
	LPG	kg	15,222		18,372	13,931
	CO2排出量	kg-CO2	24,507		29,579	22,428
	都市ガス	m ³	180,359		201,189	189,882
	CO2排出量	kg-CO2	402,201		448,651	423,438
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】		kg-CO2	733,059		788,990	724,459
②水使用量の削減		m ³	17,291		17,550	17,017
③産業廃棄物排出量の削減		t	1,024.8		949.8	940
④ 環境事業 配に お 進 進 進	a) 車検カバー率	%	72.1	店舗実績毎に設定	80.0	80.0
	b) IoT化販売促進 ※新車装着含まず	本	16,273		18,000	20,000
	c) e-BOXER搭載車(HV) 及びEVの販売促進	台	1,670	-	2,744	1,810

※2024年度目標については前年実績をベースに店舗の傾向別に目標設定し取組む。

※④ c)については、2019年・2020年・2021年：e-Boxer搭載車の販売促進/2022年・2023年：e-BOXER搭載車及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

4. 環境経営の成果

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

※項目①②③は目標比とし90.0%以下は“◎”、95.0%以下は○、100.0%以下は“△”それ以外は×とする。

(1) 環境負荷実績

※項目④は達成率とし◎110%以上達成、○100%以上達成、△95%以上で少々未達、×94%以下で未達】

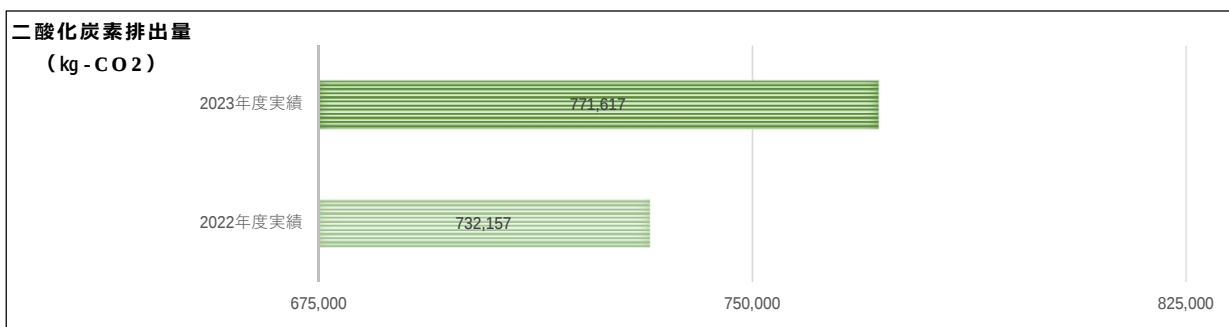
項 目	年 度	単 位	2022年度実績	2023年目標	2022年度 実績比率	2023年度の環境負荷の状況		
						2023年度実績	対目標比率&判定	
① 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電気使用量	kWh	2,744,382	2,787,366	101.6%	2,704,045	97.0%	△
	CO2排出量	kg-CO2	0	0		0		
	ガソリン	L	92,718.3	95,209	102.7%	76,590.3	80.4%	◎
	CO2排出量	kg-CO2	215,107	220,884		177,689		
	灯油	L	635.9	625	98.3%	99.8	16.0%	◎
	CO2排出量	kg-CO2	1,583	1,555		249		
	軽油	L	35,391	34,125	96.4%	44,643	130.8%	×
② 水 使 用 量 の 削 減	CO2排出量	kg-CO2	91,309	88,043		115,178		
	L P G	kg	15,223	18,372	120.7%	15,330	83.4%	◎
	CO2排出量	kg-CO2	24,509	29,580		24,680		
	都市ガス	m³	181,586	201,189	110.8%	203,507	101.2%	×
	CO2排出量	kg-CO2	404,937	448,652		453,821		
	【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	737,445	788,714	107.0%	771,617	97.8%	△
	③水使用量の削減	m³	17,276	17,550	101.6%	16,765	95.5%	△
④ 環 境 業 配 に 慮 お 推 進 進 る	③産業廃棄物排出量の削減	t	1,025	950	92.6%	321.1	33.8%	×
	a) 車検カバー率	%	72.1	80.0	111.0%	70.1	87.6%	×
	b) IoT販売促進 ※新車装着含まず	本	16,273	18,000	110.6%	15,331	85.2%	×
	c) e-BOXER搭載車(HV) 及びEVの販売促進	台	1,670	2,744	164.3%	1,573	57.3%	×

※④ a)については、カバー率80%で100%達成とする。

※④ C)についてはe-BOXER搭載車及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

(2) 千葉スバルのCO2総排出量推移



5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価

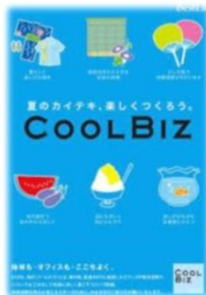
項 目	活動内容	評価及び今後の取組
①二酸化炭素排出量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：事業活動最大化に伴い、残業時間は増加したが、エネルギー使用量は全体で減少に転じた。要因として、①エアコン機器の入れ替え ②LED照明の導入などが一因と考察するが、使用する社員一人ひとりの環境配慮に対する意識向上が定着し、エネルギー使用量の減少に寄与出来たと考察。 今後：更なる環境負荷軽減を進める中では、外部団体 千葉県環境財団の環境無料診断を受診し、新しい空調機器のより効率的な使い方や既存設備の改善提案を活かして改善を進める。 また新しいエコアクション21推進事務局による店舗巡回時に啓発活動を強化することで、環境意識を上げていく。 次年度以降導入される集計システムを有効的に活用出来るように準備を進める。
電気使用量の削減	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入（LED化等） 3) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月） 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：年間を通して前年比98.5%、目標比97.0%となり目標を達成出来た。全社的に導入をしたシートシャッターやエアコン機器の入れ替えと社員の温度管理意識醸成の成果があったと考察。 エアコンは最新機器導入や既存機器に空調管理システム「エナジーセーバー」を設置を行い、適切な管理体制を図った。 合わせてショールームガラスに断熱フィルムを貼り、効率化を図った。 今後：LED照明化を進めているが、メリットを考えると更に加速してLED化を進めることが必要であり、効果を見極めて導入拡大していく。 今後も節電意識の情勢と費用対効果を見ながらお客様・社員が快適に過ごせる設備投資を行って行く。
燃料使用量の削減	1) 効率的な燃料(ガソリン、軽油)の使用 2) 来店型店舗の推進(ガソリン、軽油) 3) エコ運転の推進(ガソリン、軽油) 4) 冷暖房の室温管理（都市ガス） 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用(都市ガス、LPG) 6) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月）	評価：LPGは、工場にエアコンを導入した結果、ヒーター使用率が下がり冬場の使用量削減に繋がった。 軽油は回送一元化の結果、軽油を使用する店舗の変化が確認出来たが、適正な目標設定と効率的な回送スケジュールの見直しが必要。灯油は、全社的に使用量は減少傾向。極一部で使用しているストーブと工場洗浄用温水ボイラー稼働率を把握し、適正な目標設定が必要。 今後：ガソリンの使用量が減る一方で、店舗での使用量管理に課題が残る為、適切な管理が出来る体制を構築していく。都市ガスは、エアコン使用が大きく影響するため、電気同様業務時間中フルにONにしない様に調整について周知を図る。
②水使用量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：年間使用量は達成する事が出来たが、店舗間格差が有る為、それぞれの使用状況を注視する必要がある。また集計に際して月ごとの使用量把握に時間が掛かり、タイムリーな使用量把握に課題が残った。 今後：2023年度から全店での中併販スタートに伴い、展示車両の洗車方法や節水意識の啓発しながら運用を行う。また機械式洗車機の入れ替え時には、節水タイプの機器を積極的に導入していく。
③産業廃棄物の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) マニフェスト管理台帳による日々の数量管理 3) 不必要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：産業廃棄物は、本社の管理意識が向上しているが法令に照らし、更に管理を適切に行える様、改善が必要。 昨年に引き続き「産業廃棄物適正処理管理士3級資格」を受講し、新たに11名が取得することが出来た。 今後：産業廃棄物は、排出量のコントロール、タイムリーな排出量の把握が難しい為、次年度以降導入される集計システムの有効活用しながら削減に取り組む。
④化学物質の管理推進	1) 法規制、社内基準の順守 2) シンナー、ラッカー等の必要以上の使用を削減 3) 含有材料の適正在庫の徹底 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価と今後：当社の板金整備が顧客や環境への高い安全性と品質を証明するTUV認証取得から1年経過し、お客様へのアピールと取得による社員のもちベーションアップが得られた。今度は、より適正な化学物質管理や社員の健康管理および工場美化・認証要求事項改善などを行う。
⑤事業における環境配慮	a)車検カバー率	評価と今後：車検カバー率は前年を下回ってしまい、2024年度に大きく課題を残した。今後はお客様への提案機会を増やしながら、環境性能の高い車種の提案、良質な整備の提供を行っていく。
	b)エコタイヤ販売推進	評価と今後：お客様にとってもメリットがあるエコタイヤを積極的にご提供する事が出来た。今後は車種の特性に合ったタイヤを提案し、燃費向上の一助となる様に提案・販売を進める。
	c)環境性能エンジン『e-BOXER』の販売促進	評価：新車のみならず良質なU-CARも提供する事で、安全で環境性能の高いSUBARU車を提供することが出来た。 今後：EV車のみならず今後市場投入が見込まれるHEV車種を積極的にアピールし、環境負荷軽減を促進していく。

6-1. 環境改善活動

2023年度も省エネ化及び働きやすい環境づくりを進めることができました



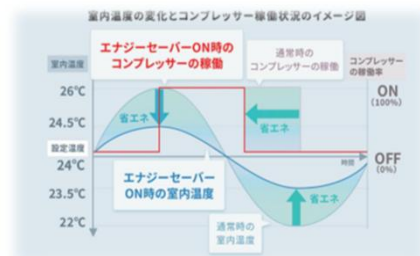
2023年度も引き続き、メカニクススタッフの労働環境改善を目的として各店舗工場出入口に自動開閉式シートシャッターの取り付けを行いました。シートシャッターを取り付ける事で、冷暖房の抜け漏れが軽減され、工場内の温度を一定に保つことが出来、エアコン使用量も抑えられる事が確認出来ました。今後も新店舗へのシャッター導入を計画し、更なるCO2削減に繋がります。



2023年度も地球温暖化防止の一環として、環境省のクールビズ期間(5月～9月末)を10月末まで延長し地球温暖化防止に努めた。



新たに2店舗のショールーム、事務所照明をLED化。現在店舗のLED化は75%まで進捗して電気使用量削減に繋がりました。引続き全店舗LED化へ努めます。



ユーカリが丘店において既存の空調機器はそのままに、AIによるより細やかな空調コントロールができるシステムを導入。冬季2月～3月の検証結果で21.7%の消費電力削減効果を確認。施設を利用するお客様やそこで働くスタッフが快適に過ごせる環境を実現しながら、高効率な電力削減を実現いたしました。



2024年2月には最新の機器を備えた船橋店がOPEN。床・壁の素材をゾーン毎に見直し、最低限の数量で必要な明るさを確保して環境負荷軽減に取り組みました。天候に左右されない屋内設備の充実により、スタッフの働きやすさにも配慮しています。

6-2. 社会貢献活動

2023年度は、活動を通して地域の方々との繋がりを更に深めることができました。



～水辺の事故からひとのいのちをまもる～
SUBARUは日本ライフセービング協会のオフィシャルパートナーです。
2023年度も小型・軽量のAEDを搭載したフォレスターを提供し、千葉県内の水辺の事故防止に向けて活躍しています。



～教材車を通して車両知識や整備技能を学ぶ～
千葉県内の自動車専門学校にBRZを寄贈しました。
整備士を志す学生の皆様に、技能向上に貢献することで
自動車を使用するすべての方の安全を守ります。



～地域社会との繋がりの醸成～
2023年度より店舗スタッフの有志による、店舗周辺地域の清掃活動に参画しています。
本部が主導するのではなく、店舗スタッフが地域社会に何らかの形で貢献したいという強い気持ちが行動に結びつきました。
SUBARUの車を通してだけでなく、これらの活動からも地域の方とのつながりを深めています



～千葉県の豊かな自然環境を守る～
毎月定期開催している海岸の清掃活動「ビーチクリーン」は、
2023年度も更に活動の輪を広げることができました。
千葉スバルの社員や地域の方のご参加にとどまらず、県外から
も活動の趣旨に共感頂きご参加頂くことができました。
今後も継続的に千葉の海岸清掃活動に参加し、環境問題
に取り組んでいきます。

～ステッカー募金による災害復興支援活動～
2024年元旦に発生した能登半島地震の復興支援
を目的としてステッカー募金を募りました。
多くの方のご賛同で500枚が無事売れました。
この収益はNPO法人U-PROJECTへ寄付し、寄付金は被災
された方の支援に係る義援金として活用頂きます。
また同NPO法人主催「まるごみ活動」にも千葉スバルは
まるごみサポーターズとして参画しています。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規 (遵守評価 2024.6.30)

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出 (自動車自動洗浄装置等)	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、年1回の水質検査及び清掃 3-4回の保守点検の実施	○
下水道法	排水施設の設置義務、特定施設の届出	○
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	○
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、廃棄物処理業者との委託契約、 廃棄物の表示・保管管理、 電子マニフェストの集計・報告	○
騒音規制法	特定施設の届出 (コンプレッサー等)	○
振動規制法	特定施設の届出 (コンプレッサー等)	○
化管法 (PRTR法)	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、 基準値以上の取扱量の場合に行政に報告 (少量の為不要)	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
自動車NOx、PM法	自動車排出NOx及びPM排出抑制に必要な措置、届出	○
以下は千葉県、各自治体の条例		
千葉県及び各市環境保全条例施行規則	特定施設「圧縮機」の規制対象出力 (上乗せ条例)	○
千葉県ディーゼル条例	特定自動車の粒子状物質減少装置の装着	○

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

2023年度は、本格的に全店舗新中併販がスタートし、最新の安心安全・先進機能の新車と上質なU-Carでお客様のカーライフに合った良質なスバル車の提供をすることが可能になり、お客様を増やすことが出来た。
設備投資は、既存の空調機器はそのままに、A Iによるより細やかな空調コントロールができるシステム「エナジーセーバー」を導入、店舗リニューアルに合わせて照明をLED化することで消費電力量削減を行った。
また、建て替えた船橋店は、①全館LED照明の採用だけでなく、最低限の数量で必要な明るさを確保するため床・壁の素材をゾーン毎に見直しを実施 ②天候に左右されない屋内設備の充実 ③サービス入庫の増加に対応すべく工場リフト数を増加を行い環境負荷軽減させつつ社員の働きやすさとお客様の利便性向上を両立させた。
社会貢献活動は、①ビーチクリーン ②店舗独自の周辺地域清掃活動 ③ライフセーバーカー貸与などの地域社会との繋がり強化だけに留まらず ④能登半島地震復興支援の募金活動を行うなど幅を拡げ取り組んだ結果、社員・お客様の参画を増やすことが出来た。
各種取り組みは進めているが、環境負荷軽減、社会貢献活動にはまだ取り組む余地があり事業活動と共に進める必要がある。

9. 経営におけるチャンスと課題

コンプライアンスを守れない企業はお客様からも信頼されず選ばれない。持続的な成長を目指すには、法令遵守のみならず「お客様からの期待に答える(CS)」＝社会からの期待に答える」ことが必要である。
社会貢献活動は、SUBARUチームをリードし前年より多くの社員とお客様が参画するなど広がっているため、2024年度は、SUBARUが掲げる「2030年死亡交通事故ゼロ」の実現に向けた活動にも取り組みを進めていく。
上記を推進することが更なる成長へのチャンスと捉えている。

課題は、「信頼される千葉スバル」になる事であり、2024年度はコンプライアンスの醸成による『お客様・社会との繋がり』『働く環境改善』『千葉スバルの持続的な成長』を念頭に企業価値向上を重点課題として環境活動に取り組む。
社会貢献活動は、地域貢献活動に加え、「一つのいのちプロジェクト」を中心とした活動を強化し、更なる社員とステークホルダーの参画に取り組む。

10. 次年度以降の環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量の少ない再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(2) 環境経営目標

年 度 項 目		単位	2023年度 目標値 ※店舗ごとに 設定した 目標合計値	2024年度 目標値 (④目標は 個別設定)	2025年度 目標値 (2024年度終 了後に2024年 度基準で目標設 定予定) (現時点では 2024年度目標 値比1%削減) (④目標は 個別設定)	達成手段
① 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電気使用量	kWh	2,787,366	2,744,147	2,716,706	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入 (LED化等) 3) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月) 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化
	CO2排出量	kg-CO2	0	0	0	
	ガソリン	L	95,208	79,016	78,226	1) 効率的な燃料(ガソリン、軽油)の使用 2) 来店型店舗の推進(ガソリン、軽油) 3) エコ運転の推進(ガソリン、軽油) 4) 冷暖房の室温管理 (都市ガス) 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用 (都市ガス、LPG) 6) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月)
	CO2排出量	kg-CO2	220,883	183,317	181,483	
	灯油	L	737	273	270	
	CO2排出量	kg-CO2	1,835	679	672	
	軽油	L	34,125	36,666	36,299	
	CO2排出量	kg-CO2	88,043	94,597	93,651	
	LPG	kg	18,372	13,931	13,791	
	CO2排出量	kg-CO2	29,579	22,428	22,204	
	都市ガス	m ³	201,189	189,882	187,984	
	CO2排出量	kg-CO2	448,651	423,438	419,203	
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】		kg-CO2	788,991	724,459	717,214	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化 3) 結果分析方法や改善活動の見直し
②水使用量の削減		m ³	17,550	17,017	16,847	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化
③産業廃棄物排出量の削減		t	950	940	931	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 電子マニフェストによる日々の実績管理 3) 不必要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化 5) 特別管理産業廃棄物の適切な管理及び処理
④ 環 境 業 配 に 慮 お 推 け 進 る	a) 車検カバー率	%	80%	80%	80%	1) 6か月毎の点検入庫促進活動の強化 2) 環境性能の高い車種への代替提案 3) 環境配慮した良質な整備メニューの提供
	b) エコタイヤ販売促進 ※新車装着含まず	本数	18,000	20,000	20,000	1) 点検入庫機会を活用した 付加価値提案 (エコタイヤ)
	c) e-BOXER搭載車 及びEVの販売促進	台数	2,744	1,810	2,000	1) 環境性能エンジン『e-BOXER』 電気自動車『ソルテラ』の販売促進により環境負荷削 減

※化学物質は維持管理を実施している。

【CO2排出係数 / 調整後係数】

【電気】0kg-CO2/kWh (プレミアムゼロプラン) 2019年度より導入

【ガソリン】2.32 kg-CO2/kL・【灯油】2.49 kg-CO2

【軽油】2.58 kg-CO2/L

【LPG】1.61 kg-CO2/ kg・【都市ガス】2.23 kg CO2/m³

※排出係数は基準年度と同係数で統一

【次年度以降の目標】

※今後の店舗拡充による増加分は加味せず。

※対基準年：2024年度→1%減、対基準年：2025年度→2%減